



遠藤 保明 議員



未舗装市道の整備を

問 市道全体の約7割は舗装されているが、まだ未舗装の道路が多くある。本市では幅員が4メートル未満の道路は新たに舗装しないとのことだが、実際に未舗装市道のほとんどが幅員4メートル未満なので、舗装整備の取決めを見直してできないか。

答 有事の際の緊急車両の通行や、通常車両の往来に支障がないような考えに基づいているため、幅員4メートル以上の確保を原則としている。

過疎地対策を

問 新過疎法が施行され、旧干潟町が過疎地域に指定されたが、このことによってどのようなメリットがあるのか。

答 元利償還の70%が交付税措置される過疎対策事業債による支援や、国庫補助金の補助率のかさ上げ、固定資産税の課税免除に伴う減収補てん措置などの

様々な財政支援措置が受けられるようになる。

問 多くの過疎地において移住・定住政策を実施しているが、医療や福祉面で不安があるところが多い。しかし本市には旭中央病院があるため、田舎暮らしをしながらも充実した医療を提供できるという特殊な状況にあるので、この有利な財政支援措置を活用するための計画を策定するべきでは。

答 県から方針の素案が示され、たら関係機関と協議、調整を重ね、具体的な事業を盛り込んだ計画を策定する。干潟地域の持続的発展のため有利な財政支援措置を活用し、効果的な事業展開を図っていきたい。



過疎地域に指定された旧干潟町

PCR検査の拡充を

問 新型コロナウイルス新規感染者数の減少ペースが鈍くなっており、本市でも6月現在で143人の感染者が報告されている。ワクチン接種の状況は。

答 65歳以上の高齢者については、1回目の接種率は48・7%、2回目の接種率は13・9%。64歳以下の方には今後接種券を送付する予定。11月末までに接種を希望する人全員の接種完了を目指していきたい。

問 日本のワクチン接種数は世界111位、人口比のPCR検査数は世界140位であり、どちらも遅れている。PCR検査をして、事前に陽性者を把握することが重要だと思うが、高齢者施設などで定期的なPCR検査をするべきでは。

答 高齢者施設の入居者などについてはワクチン接種が進んでいるため、状況を見ながら検討したいと考える。



高木 寛 議員



高齢者医療費2倍化法案に反対の姿勢を



問 一定以上所得のある後期高齢者の医療費窓口負担を1割から2割にする「高齢者医療費2倍化法案」が国で可決されたが、本市の見解は。

答 医療費が年々増加する中で、医療費を抑制するために自分の負担をしようということだと思っており、国の動向を見ながらそれに倣っていきたい。

問 改正案に反対する声や、高齢者に容赦なく痛みを強いる実態を踏まえて、市として反対の意見表明をすべきでは。

答 今回の法改正は、少子高齢化が急速に進む中で、現役世代の負担上昇を抑えながら、すべての世代の方々が安心して社会保障制度を構築するものと理解しているので、法令の趣旨に沿って進めていきたい。

その他の質問事項
○核兵器禁止条約について